

日清オイリオグループ株式会社 決算補足資料

2023年度（2024年3月期）第1四半期

1. 決算概要

- 1-1. 2023年度 第1四半期決算
- 1-2. セグメント別実績
- 1-3. セグメント情報：売上高・営業利益の増減要因（対前年同期比）
- 1-4. セグメント情報詳細

2. 2023年度業績予想

- 2-1. 2023年度業績予想
- 2-2. セグメント別予想
- 2-3. セグメント情報：売上高・営業利益の増減要因（対前期比）
- 2-4. セグメント情報詳細

1. 決算概要

1-1. 2023年度 第1四半期 決算

単位：百万円

	2023年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	128,740	138,224	△9,483	△6.9%
海外売上高比率	18.3%	25.4%	—	△7.1P
営業利益	6,334	4,967	+1,367	+27.5%
売上高営業利益率	4.9%	3.6%	—	+1.3P
経常利益	6,554	5,036	+1,517	+30.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,037	4,395	+641	+14.6%

1-2. セグメント別実績

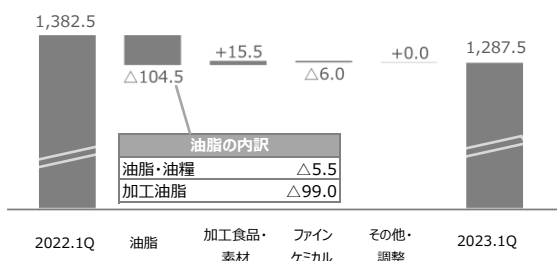
単位：百万円

	2023年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	128,740	138,224	△9,483	△6.9%
油脂	106,465	116,930	△10,464	△8.9%
油脂・油糧	84,046	84,611	△564	△0.7%
加工油脂	22,418	32,318	△9,899	△30.6%
加工食品・素材	17,010	15,441	+1,568	+10.2%
ファインケミカル	4,643	5,235	△591	△11.3%
その他・調整	621	617	+3	+0.6%
営業利益	6,334	4,967	+1,367	+27.5%
油脂	5,896	4,453	+1,442	+32.4%
油脂・油糧	4,842	2,041	+2,800	+137.2%
加工油脂	1,053	2,412	△1,358	△56.3%
加工食品・素材	194	66	+128	+192.5%
ファインケミカル	312	542	△229	△42.3%
その他・調整	△69	△95	+25	—

1-3. セグメント情報：売上高・営業利益の増減要因（対前年同期比）

単位：億円

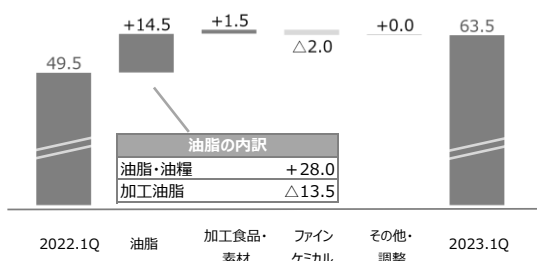
■ 売上高増減



<売上高増減要因>

- 油脂
 - ・油脂、ミールの販売単価上昇（↑）
 - ・業務用、ホームユース製品の販売数量減（↓）
 - ・搾油量減少に伴うミールの販売数量減（↓）
 - ・パーム油相場下落に伴う海外加工油脂の販売単価下落（↓）
- 加工食品・素材
 - ・チョコレート製品、MCT製品、大豆素材・食品製品の販売価格改定（↑）
- ファインケミカル
 - ・欧州子会社における販売数量減と販売単価下落（↓）
 - ・国内における化粧品原料の販売価格改定（↑）
 - ・衛生製品における販売数量減（↓）

■ 営業利益増減



<営業利益増減要因>

- 油脂
 - ・油脂の適正価格での販売（↑）
 - ・業務用、ホームユース製品の販売数量減（↓）
 - ・パーム油取引の時価評価益の減少（↓）
- 加工食品・素材
 - ・チョコレート製品、MCT製品、大豆素材・食品製品の販売価格改定（↑）
 - ・調味料、MCT製品、大豆関連製品における原料コスト上昇（↓）
 - ・MCT製品における販管費の増加（↓）
- ファインケミカル
 - ・欧州子会社における販売数量減と販売単価下落（↓）
 - ・衛生製品における原料コスト上昇（↓）

1-4. セグメント情報詳細

油脂（うち油脂・油種）

単位：百万円
増減額は前年同期比

	売上高		営業利益 増減額	コメント
	実績	増減額		
国内油脂	51,215	+438	+2,734	・業務用、ホームユース製品の販売数量減少など減収要因があるものの、前年度までの価格改定実現の効果もあり、販売単価が上昇したことから、増収増益
業務用・加工用	32,653	+804		
ホームユース	18,561	△366		
ミール	24,996	+281		
子会社	20,035	△1,249	△0	
連結調整 他	△12,200	△34	+66	
油脂・油種 計	84,046	△564	+2,800	

補足：国内油脂に占める付加価値品

売上高構成比	売上高増減額
16%	△120

補足：国内油脂の営業利益増減額の内訳

単位：億円

	増減額	主な要因
販売数量要因	△8.0	業務用・加工用（△3.5）、ホームユース（△4.5）
販売単価要因	+48.0	業務用・加工用（+27.0）、ホームユース（+21.0）
コスト要因	△9.5	
大豆	△3.5	C&F（+1.0）、為替（△31.5）、ミール販売（+27.0）
菜種	+41.0	C&F（+55.5）、為替（△25.0）、ミール販売（+10.5）
その他商品・製造費	△47.0	期首期末在庫影響等
販管費・その他	△3.0	
合計	+27.5	

油脂（うち加工油脂）

単位：百万円
増減額は前年同期比

	売上高		営業利益 増減額	コメント
	実績	増減額		
海外加工油脂	23,035	△12,055	△1,742	・パーム油相場下落に伴う販売価格の下落により減収 ・製造費等の上昇に加え、パーム油取引の時価評価（当期+2.5億円、前期+14.5億円）の減少により減益
欧州	9,513	△5,788		
アジア	12,056	△5,352		
その他地域	1,465	△915		
国内加工油脂	3,625	+663	+338	原料代、ユーティリティ等のコスト増に伴う販売価格改定により増収増益
連結調整 他	△4,242	+1,492	+46	
加工油脂 計	22,418	△9,899	△1,358	

補足：海外加工油脂の販売数量増減率（増減率は前年同期比）

	販売数量増減率
海外加工油脂	△7%
欧州	△25%
アジア	+11%
その他地域	△33%

補足：海外加工油脂に占めるチョコレート用油脂を中心としたスペシャルティファット

売上高構成比	販売数量増減率
37%	△15%

補足：ISF（マレーシア）の営業利益増減額の内訳

単位：億円

	増減額	主な要因
販売数量要因	△0.5	スペシャルティファット（△0.5）、その他（+0.0）
販売単価要因	△114.5	スペシャルティファット（△22.5）、その他（△92.0）
コスト要因	+109.5	
原料代	+116.5	
製造費 他	△7.0	
販管費・その他	+0.5	
パーム油取引時価評価	△12.0	当期+2.5億円、前期+14.5億円
合計	△17.0	

1-4. セグメント情報詳細

加工食品・素材

単位：百万円
増減額は前年同期比

	売上高		営業利益 増減額	コメント
	実績	増減額		
チョコレート	8,383	+431	+238	・原料コスト上昇も、販売価格改定等により増収増益
調味料	1,315	+27	△40	・販売価格改定により増収も、原料コスト上昇により減益
機能素材・食品	2,386	+523	△79	・MCTの販売価格改定により増収も、原料コストの上昇および販管費の増加により減益
MCT	1,922	+477		
大豆素材・食品	5,756	+340	+6	・原料コスト上昇に伴う販売価格改定により増収増益
連結調整 他	△832	+246	+3	
加工食品・素材 計	17,010	+1,568	+128	

ファインケミカル

単位：百万円
増減額は前年同期比

	売上高		営業利益 増減額	コメント
	実績	増減額		
ファインケミカル製品	3,919	△272	△113	・欧州子会社の販売数量減および販売単価下落により減収減益
環境・衛生	1,591	△256	△62	・販売数量減少および原料コストの上昇により減収減益
連結調整 他	△867	△62	△54	
ファインケミカル 計	4,643	△591	△229	

補足：化粧品原料

売上高	増減額
2,236	△173

※化粧品原料の売上高は
ファインケミカル製品売上高の内数

主な換算為替レート（期中平均レート）

	円/USD	円/EUR	円/MYR	円/CNY	円/IDR
2022年度第1四半期	129.73	138.26	29.85	19.61	0.0089
2023年度第1四半期	137.49	149.58	30.38	19.56	0.0092

2. 2023年度業績予想

2-1. 2023年度業績予想

単位：百万円

	2023年度 予想	2022年度 実績	前期比	
			増減額	増減率
売上高	540,000	556,565	△16,565	△3.0%
営業利益	16,000	16,186	△186	△1.1%
経常利益	16,000	16,242	△242	△1.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,500	11,157	+342	+3.1%

2-2. セグメント別予想

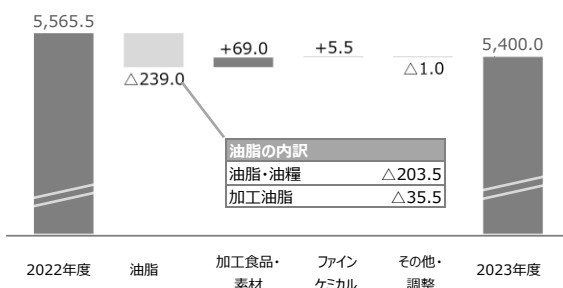
単位：百万円

	2023年度 予想	2022年度 実績	前期比	
			増減額	増減率
売上高	540,000	556,565	△16,565	△3.0%
油脂	444,500	468,379	△23,879	△5.1%
油脂・油糧	330,000	350,356	△20,356	△5.8%
加工油脂	114,500	118,023	△3,523	△3.0%
加工食品・素材	72,000	65,103	+6,896	+10.6%
ファインケミカル	21,000	20,462	+537	+2.6%
その他・調整	2,500	2,619	△119	△4.6%
営業利益	16,000	16,186	△186	△1.1%
油脂	14,100	14,625	△525	△3.6%
油脂・油糧	10,550	9,097	+1,452	+16.0%
加工油脂	3,550	5,528	△1,978	△35.8%
加工食品・素材	1,150	533	+616	+115.5%
ファインケミカル	1,100	1,385	△285	△20.6%
その他・調整	△350	△358	+8	-

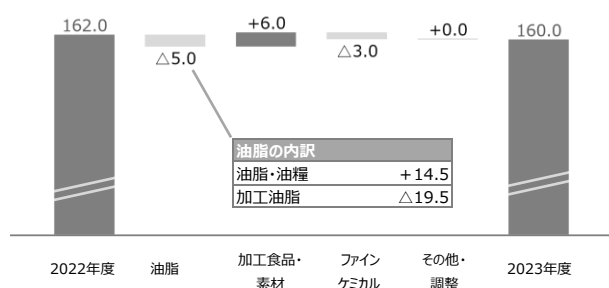
2-3. セグメント情報：売上高・営業利益の増減要因（対前期比）

単位：億円

■ 売上高増減



■ 営業利益増減



<売上高増減要因>

○油脂

- 原料相場下落に伴う油脂およびミールの販売単価下落（↓）
- 搾油量減少に伴うミールの販売数量減（↓）
- パーム油相場下落に伴う海外加工油脂の販売単価下落（↓）

○加工食品・素材

- チョコレート製品の販売数量増および販売単価上昇（↑）
- MCT製品の販売数量増および販売単価の上昇（↑）

○ファインケミカル

- 欧州子会社における販売数量減と販売単価下落（↓）
- 国内における化粧品原料の販売数量増および販売価格改定（↑）
- 衛生製品の販売単価の上昇（↑）

<営業利益増減要因>

○油脂

- 原料相場下落に伴うコスト減少および適正価格での販売継続（↑）
- 国内加工油脂の販売数量増および販売価格改定（↑）
- パーム油取引の時価評価の影響（↓）

○加工食品・素材

- チョコレート製品の販売数量増および販売単価の上昇（↑）
- MCT製品の販売数量増および販売単価の上昇（↑）
- 大豆関連製品の販売数量増および販売単価の上昇（↑）

○ファインケミカル

- 欧州子会社における販売数量減と販売単価下落（↓）
- 国内における化粧品原料の販売数量増および販売価格改定（↑）
- 衛生製品の販売単価の上昇（↑）

2-4. セグメント情報詳細

油脂（うち油脂・油糧）

単位：百万円
増減額は前期比

	売上高		営業利益 増減額	コメント
	予想	増減額		
国内油脂	199,766	△7,771	+1,719	・国内油脂の販売数量が増加するも、原料相場下落に伴う販売単価下落、ミールの販売数量減により減収 ・原料相場下落に伴う国内油脂およびミールの販売単価の下落も、コスト減少および適正価格による販売を継続し増益
業務用・加工用	124,859	△8,023		
ホームコース	74,906	+252		
ミール	93,590	△15,934		
子会社	83,049	+767	△208	
連結調整 他	△46,406	+2,581	△58	
油脂・油糧 計	330,000	△20,356	+1,452	

補足：国内油脂に占める付加価値品

売上高構成比	売上高増減額
18%	+2,028

補足：国内油脂の営業利益増減額の内訳

単位：億円

	増減額	主な要因
販売数量要因	+5.0	業務用・加工用（+5.0）、ホームコース（△0.0）
販売単価要因	△101.5	業務用・加工用（△109.5）、ホームコース（+8.0）
コスト要因	+133.0	
大豆	+35.5	C&F（+98.5）、為替（△43.5）、ミール販売（△19.5）
菜種	+196.0	C&F（+258.0）、為替（△45.5）、ミール販売（△16.5）
その他商品・製造費	△98.5	オリーブ油等のコスト上昇、期首期末在庫影響 等
販管費・その他	△19.5	
合計	+17.0	

油脂（うち加工油脂）

単位：百万円
増減額は前期比

	売上高		営業利益 増減額	コメント
	予想	増減額		
海外加工油脂	116,877	△8,203	△2,988	・チョコレート用油脂を中心に販売数量は増加も、パーム油相場下落に伴う販売価格の下落により減収 ・パーム油取引の時価評価（当期△9.5億円、前期+14.5億円）の影響により減益
欧州	46,187	△7,813		
アジア	62,985	+426		
その他地域	7,703	△816		
国内加工油脂	14,822	+1,401	+879	・販売数量増および販売価格改定により、増収増益
連結調整 他	△17,199	+3,279	+130	
加工油脂 計	114,500	△3,523	△1,978	

補足：海外加工油脂の販売数量増減率（増減率は前期比）

	販売数量増減率
海外加工油脂	+5%
欧州	△13%
アジア	+8%
その他地域	+102%

補足：海外加工油脂に占めるチョコレート用油脂を中心としたスペシャルティファット

売上高構成比	販売数量増減率
37%	+9%

補足：ISF（マレーシア）の営業利益増減額の内訳

単位：億円

	増減額	主な要因
販売数量要因	+10.5	スペシャルティファット（+4.5）、その他（+6.0）
販売単価要因	△127.5	スペシャルティファット（△74.0）、その他（△53.5）
コスト要因	+111.0	
原料代	+93.5	
製造費 他	+17.5	
販管費・その他	+0.5	
パーム油取引時価評価	△24.0	当期△9.5億円、前期+14.5億円
合計	△29.5	

2-4. セグメント情報詳細

加工食品・素材

単位：百万円
増減額は前期比

	売上高		営業利益 増減額	コメント
	予想	増減額		
チョコレート	37,444	+3,025	+283	・販売数量増と販売単価の上昇により、増収増益
調味料	4,850	+329	△83	・販売価格改定により増収も、原料コスト上昇により減益
機能素材・食品	10,675	+2,690	+151	・MCTの販売数量増と販売価格改定により増収増益
MCT	8,512	+2,329		
大豆素材・食品	22,034	+78	+226	・大豆たん白の販売数量増および販売価格改定により増益
連結調整 他	△3,005	+772	+39	
加工食品・素材 計	72,000	+6,896	+616	

ファインケミカル

単位：百万円
増減額は前期比

	売上高		営業利益 増減額	コメント
	予想	増減額		
ファインケミカル製品	16,219	△713	△360	・欧州子会社における販売数量減および販売単価下落により減収減益
環境・衛生	7,173	+235	+71	・衛生製品の販売単価上昇により増収増益
連結調整 他	△2,393	+1,014	+2	
ファインケミカル 計	21,000	+537	△285	

補足：化粧品原料

売上高	増減額
10,062	△196

※化粧品原料の売上高は
ファインケミカル製品売上高の内数

主な換算為替レート（期中平均レート）

	円/USD	円/EUR	円/MYR	円/CNY	円/IDR
2022年度	135.50	140.99	30.47	19.75	0.0090
2023年度	137.49	149.58	30.38	19.56	0.0092

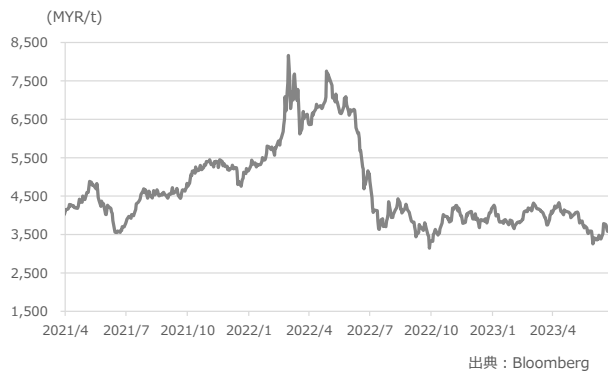
■ シカゴ大豆相場



■ ICE菜種相場



■ バーム原油相場



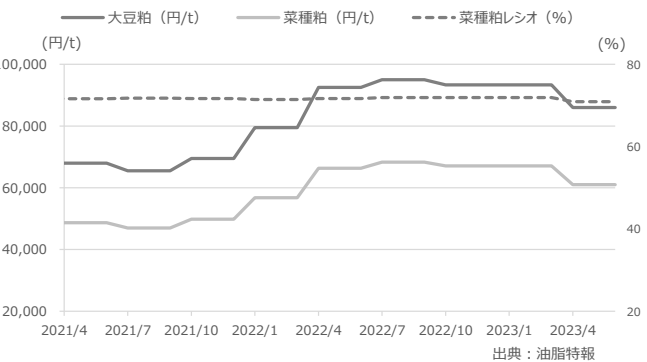
■ 為替相場 (円/ドル)



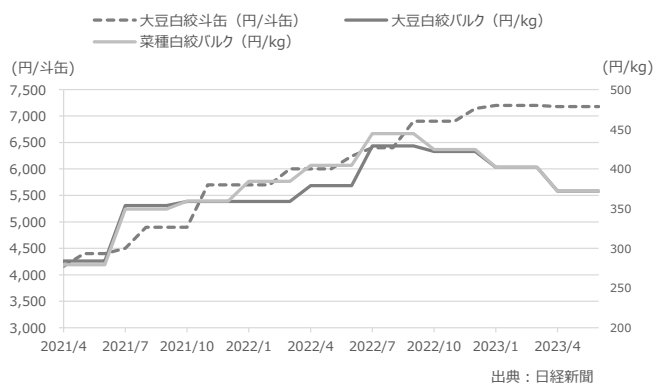
■ ミールバリュー推移



■ ミール業界平均価格

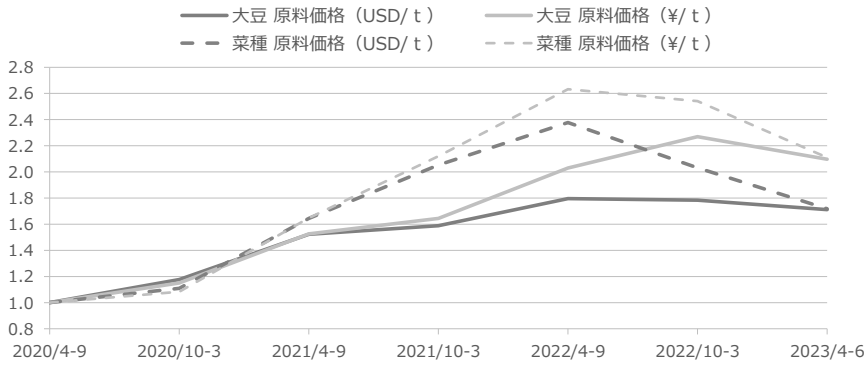


■ 日経市中相場 (業務用斗缶)

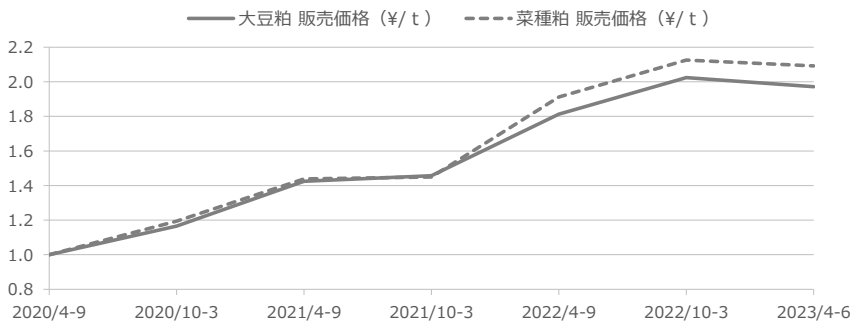


※2020年4-9期を1とした指数
出典：日清オイリオグループ(株)の数値

■ 原料（大豆・菜種）



■ 油粕（大豆・菜種）



■ 油脂主要商品の販売価格（ギフトを除く、加重平均単価）

